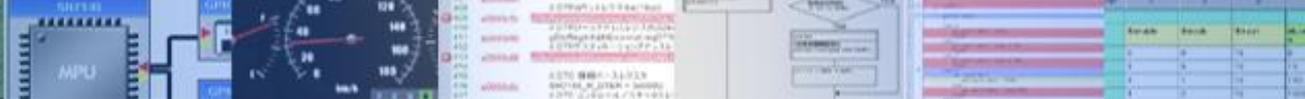


# カバレッジマスターゼネラル 概略手順書

ガイオ・テクノロジー(株) 営業部



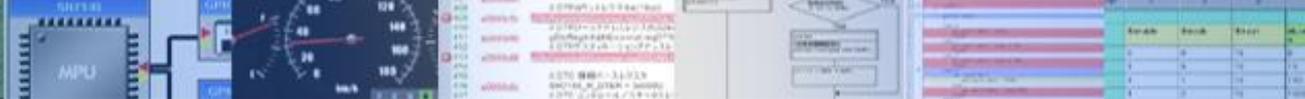
# カバレッジマスターゼネラルに含まれる製品

## ■ ソース解析ツール「CasePlayer2」

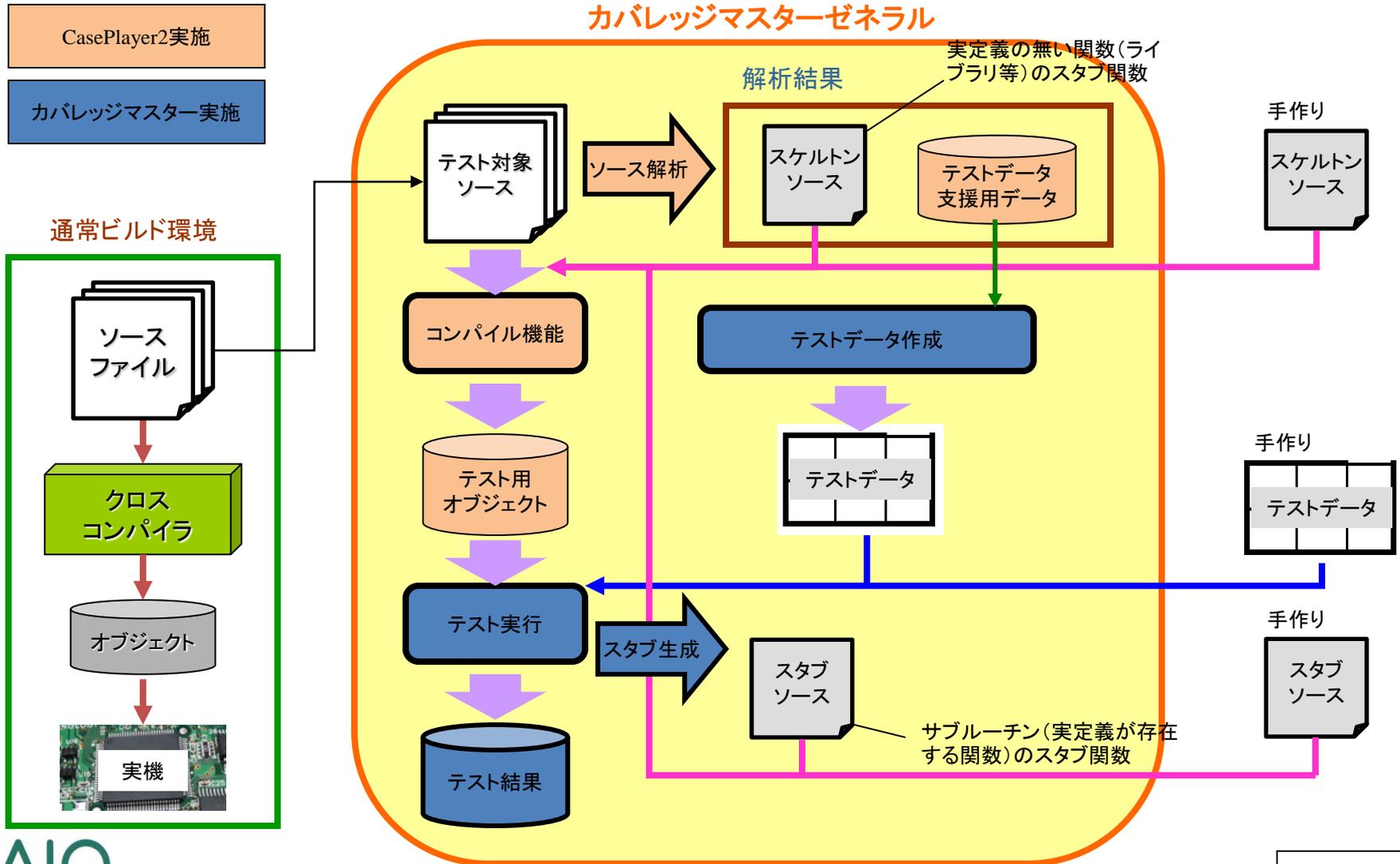
- テストデータ作成用解析データの生成
- 実定義の無い関数雛形ソースの生成
- テスト用オブジェクトのコンパイル機能

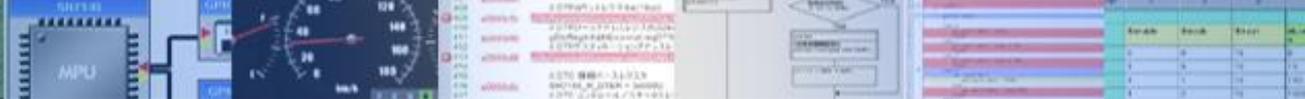
## ■ 単体テスト実行ツール「カバレッジマスター」

- テストデータ作成
  - CasePlayer2のソース解析データを用いてテストデータ作成を実施
- 単体テスト実行
- テスト結果/カバレッジ計測

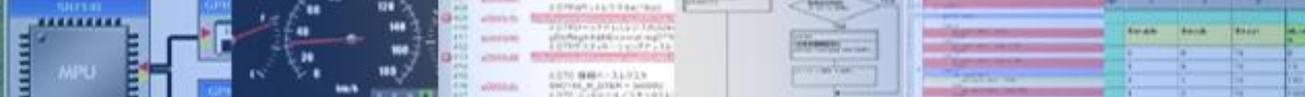


# カバレッジマスターゼネラルの機能構成概要





## ツール手順



# CasePlayer2のプロジェクト作成

③ 「OK」ボタンを押す

プロジェクトの新規作成

プロジェクト名(P):

場所(L): C:\Documents and Settings\tshima#\デスクトップ

補足情報(S):

プロジェクトの種類

- 仕様書生成のみ(R)
- 概要説明をソースに戻す(W)
  - ソースファイルをコピーする(Y)

オプションパラメータファイルの指定

- Cオプションパラメータファイル(C)
  - デフォルト
- ソースファイルは絶対パスで管理する(F)

アセンブラスースに関する設定

- 通常のアセンブラスース(ガイオ構造化マクロ)
- 構造化マクロ RA78k(日本電気 7k/0~4)
- 構造化マクロ SRA74(ルネサス 740/38000)
- 構造化マクロ ルネサス H8/300,300H,H8S
- 構造化マクロ 富士通 FMC-8L
- 構造化マクロ ルネサス M16C

ファイル拡張子(T): .xas

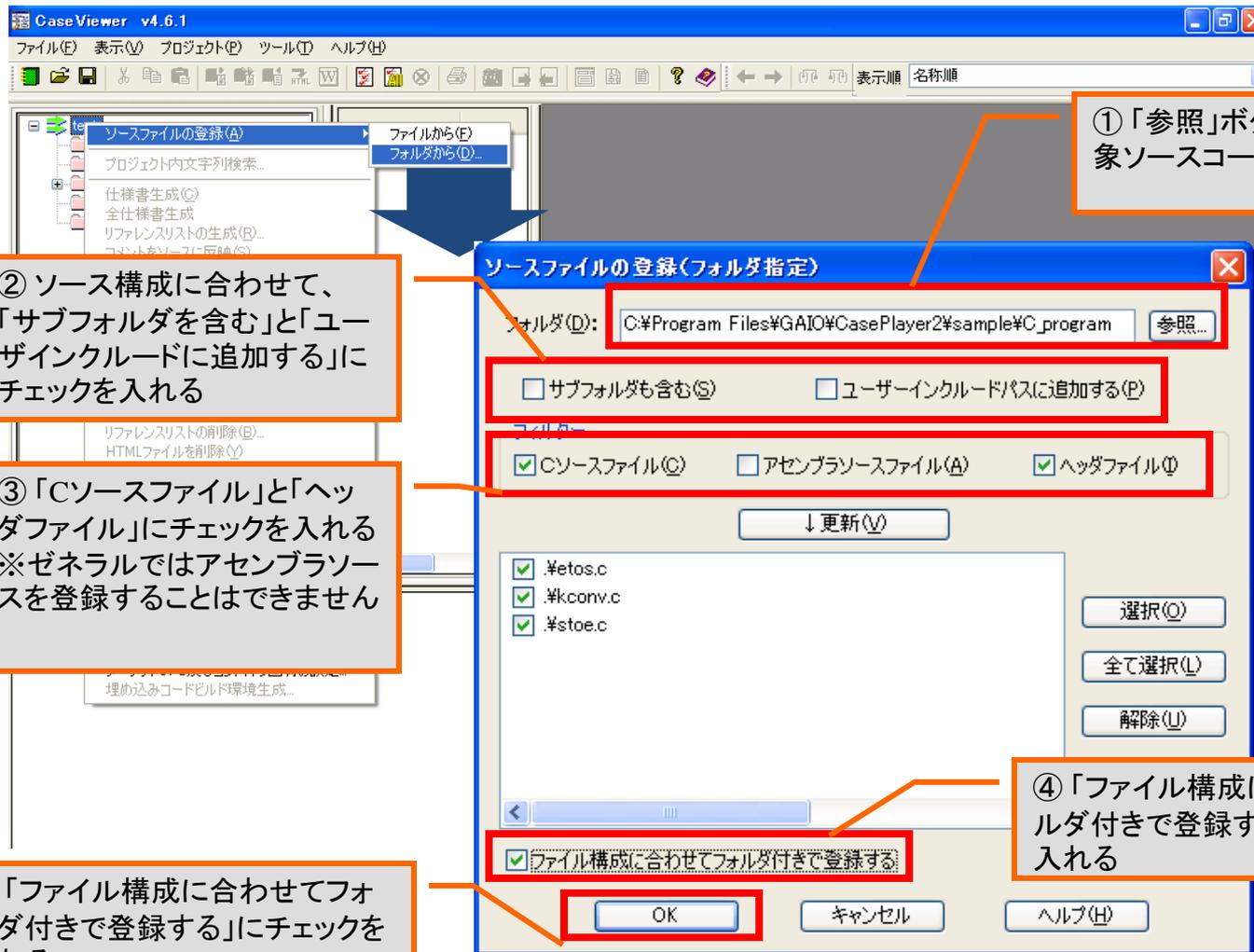
階層化を有効にする

OK

キャンセル

ヘルプ(H)

# 対象ソースコードの登録



① 「参照」ボタンを押し、テスト対象ソースコードのパスを設定

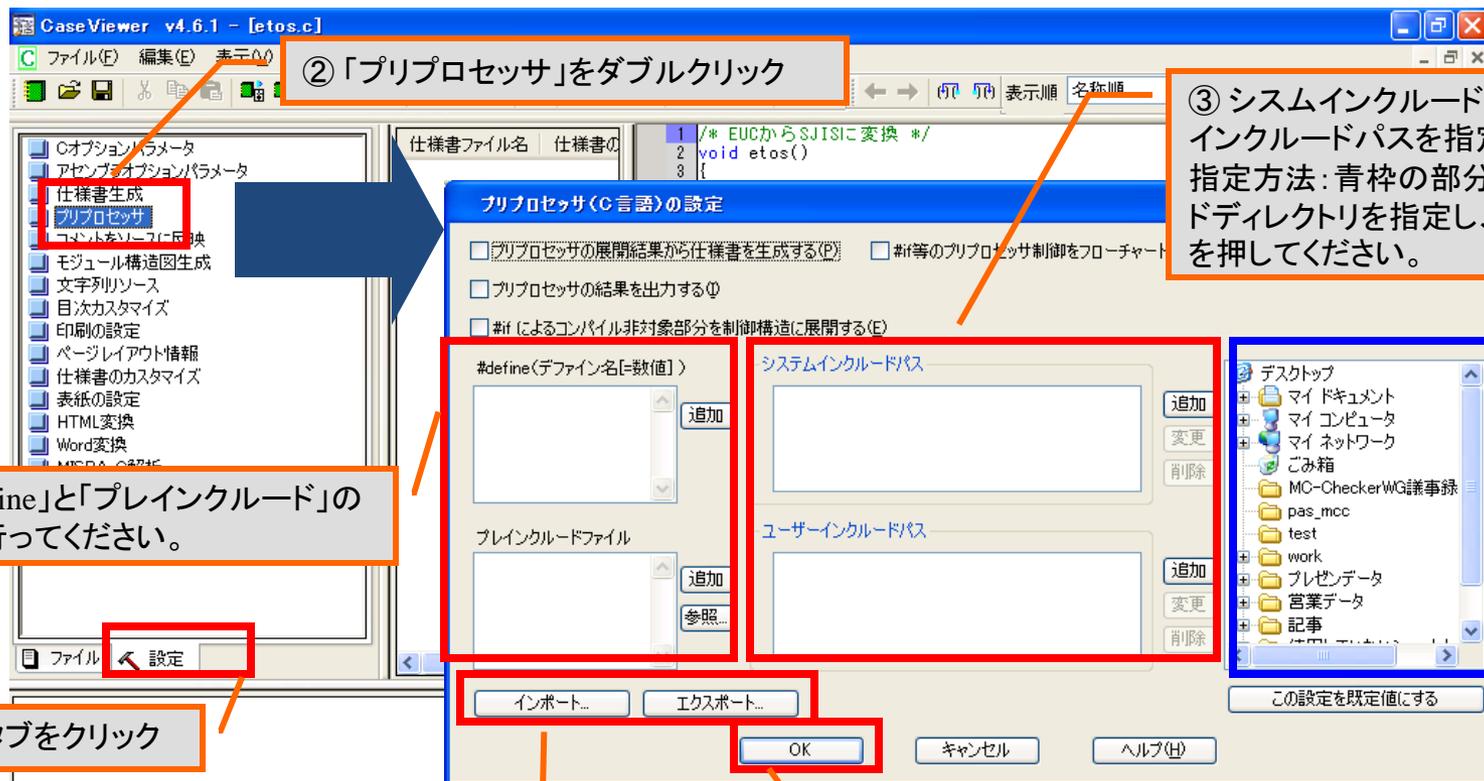
② ソース構成に合わせて、「サブフォルダを含む」と「ユーザーインクルードに追加する」にチェックを入れる

③ 「Cソースファイル」と「ヘッダファイル」にチェックを入れる  
※ゼネラルではアセンブラソースを登録することはできません

④ 「ファイル構成に合わせてフォルダ付きで登録する」にチェックを入れる

⑤ 「ファイル構成に合わせてフォルダ付きで登録する」にチェックを入れる

# プリプロセッサの設定



② 「プリプロセッサ」をダブルクリック

③ システムインクルードパスとユーザーインクルードパスを指定してください。指定方法: 青枠の部分でインクルードディレクトリを指定し、「追加」ボタンを押してください。

④ 「#define」と「プレインクルード」の設定を行ってください。

① 「設定」タブをクリック

参考  
プリプロセッサの設定をテキストベースで行うことも可能です。インクルードパスなどをコピーペーストしたい場合には「エクスポート」ボタンを押してください。

⑤ 「OK」ボタンを押す

# 仕様書生成(コンパイル)設定

① 「仕様書生成」をダブルクリック

② 「詳細解析を行う」と「#define一覧」にチェックを入れる

③ 「winAMS用プログラム解析情報を生成する」と「General」と「スケルトン生成のための情報を生成する」にチェックを入れる

④ 「構造体のタグ名にtypedef名を使用する」にチェックを入れる

⑤ 「OK」ボタンを押す

## 参考：Cオプションパラメータファイルの設定

- ANCI-C以外のCプログラムがある場合に設定が必要です。

「Cオプションパラメータ」をダブルクリック

設定方法はヘルプマニュアルを参照ください。

キーワード(K)	種類(S)	後置記述(W)
near	TYPEATT	
far	TYPEATT	



# スケルトンソースの生成(1)

- 実定義の無い関数(ライブラリ等)のスケルトンソースを生成させるための設定ウィンドウを起動します。

The screenshot shows the 'Case Viewer' application window. The 'プロジェクト(P)' menu is open, and the option '定義のない関数のスケルトンを生成(K)...' is highlighted. A blue arrow points from this menu item to a dialog box titled '定義のない関数、変数の定義を生成'.

The dialog box contains the following sections:

- スケルトン生成する関数の選択**
  - <<スケルトン生成しない関数>>: func1\_sub\_calc
  - <<スケルトン生成する関数>>: (empty)
  - Buttons: 追加(A) >>, << 削除(D)
- 定義を生成する外部変数の選択**
  - <<定義を生成しない変数>>: (empty)
  - <<定義を生成する変数>>: (empty)
  - Buttons: 追加(A) >>, << 削除(D)
- 生成ソースファイル名(S): C:\Documents and Settings\tshima\Desktop\スケルトン生成 参照...
- Buttons: OK, キャンセル, ヘルプ(H)

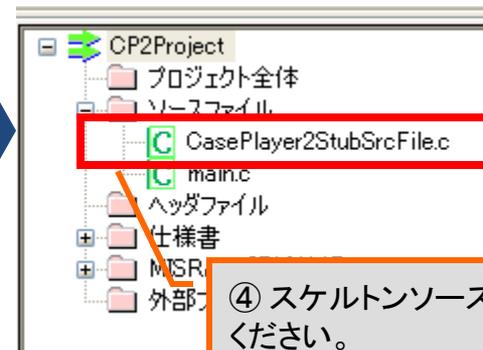
① 「プロジェクト」⇒「定義のない関数のスケルトンを生成」を選択

# スケルトンソースの生成(2)

## ■ スケルトンソースの生成



① スケルトンソースが必要な関数を選択し、「追加」ボタンで設定してください。  
同様に変数定義が必要な変数を「追加」ボタンで設定してください



④ スケルトンソースが追加されたことを確認してください。

② スケルトンソース名と保存先ディレクトリを指定してください

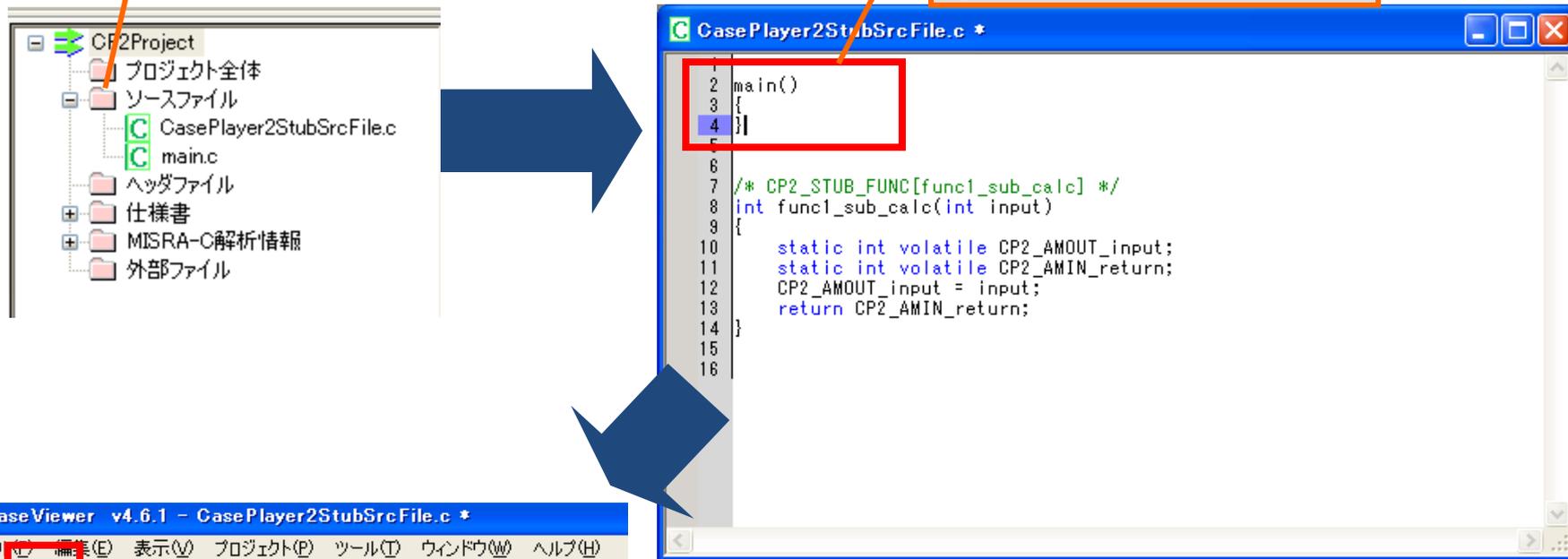
③ OKボタンを押してください。

# メイン関数の挿入

- カバレッジマスターゼネラルでは必ずメイン関数が必要なため、先ほどのスケルトンソースファイルに空のメイン関数を作成します。

① スケルトンソースファイルをダブルクリック

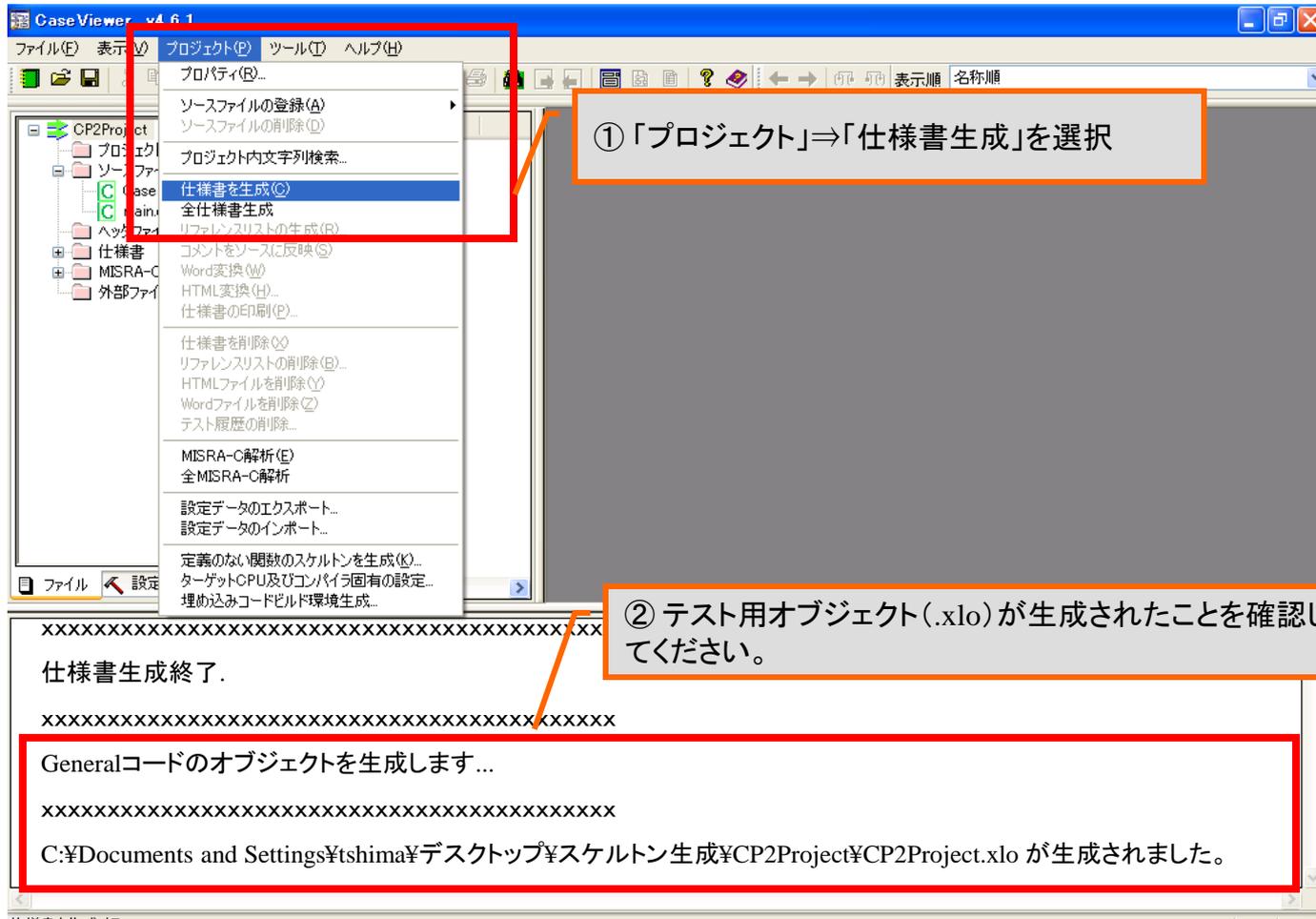
② 空のメイン関数を挿入(手作業)



③ 上書きアイコンで保存

# コンパイル(2回目)

## ■ テスト用オブジェクトの生成



スケルトンソースと空のメイン関数を含むオブジェクトが生成されれば、完了です。

END

最新の製品情報は  
<http://www.gaio.co.jp/>



## ガイオ・テクノロジー株式会社

※会社名・商品名は各社の商標または登録商標です。  
※本資料の無断転載、複写はお断りします。

ガイオ・テクノロジー株式会社  
日本橋事業所 営業部  
〒103 東京都中央区日本橋人形町3-12-8

TEL.(03)3662-3041  
FAX.(03)3662-3043  
Email [info@gaio.co.jp](mailto:info@gaio.co.jp) ..ご質問はこちらにお願いします。